

5-3 災害対策・BCP検討WG 並びに災害対応WG

1. 主な活動の記録

(1) 災害対応WG並びに災害対策・BCP検討WGの開催

a) 委員会開催回数：2回

令和2年7月20日

令和3年4月9日

b) 演習

令和2年9月1日

(2) 災害時対応演習の実施

令和2年度の災害時対応演習は、東北支部管内で大規模地震が発生したとの想定で、災害対策本部・災害対策現地本部・災害対策支部設置要領に基づく連絡・伝達網の確認を行った。

なお、本年度は、各支部において新型コロナウイルス対策によるオンラインシステムが整備されたことにより、全支部を交えてWEB会議による演習を行うことができた。

(3) 演習の主要目的

演習の主眼は、以下に示す連絡・伝達網およびその機能のチェックとした。

a) 災害対策本部、災害対策現地本部ならびに災害対策支部との連絡・伝達網が正常に機能できるか否かを検討する。

b) 支部と会員各社との連絡網が正常に機能できるか否かを検討する。

c) 会員会社はできるだけ同時に各社ごと演習を行い、その成果を検証する。

d) 本部、現地本部、リエゾン、9支部においてビデオ会議システムを用いた連絡確認を実施する。今回は、全ての拠点をビデオ会議システムでつないだ初の演習となる。

(4) 災害時対応演習実施状況

平成11年度より継続実施している防災演習の想定災害発生地域の最近の実施地域は表1の通りであり、次年度は中部支部が対象となる。

今年度の災害時対応演習の特徴は、WEB会議を導入したことに加え、災害対策本部、災害対

策現地本部及び近畿地整に派遣されたリエゾンの3者をWEB会議でつなぎ、情報をリアルタイムで共有した。

表1 災害時対応演習における想定災害発生支部

年 度	想定災害発生支部
平成30年	関東支部
令和元年	近畿支部
令和2年	東北支部
令和3年	中部支部

(5) 災害時対応演習等の課題

演習後の各支部からの実施報告から以下のような課題が明らかになった。

a) 本部一現地本部（東北支部）とのリアリティな訓練が出来た点では良かったが、本部と他支部とのやり取りが疎かになった。

b) シナリオスケジュールだと支部会員とのやり取りを実施中のところもあり、支部スケジュールとの事前調整が必要である。

(6) 本省との対応

近年大規模自然災害が頻発することから、被災自治体への支援ニーズは増大・多様化してきている。これより、支援活動のさらなる効率化・迅速化に向けた民間の積極的活用に関する意見交換を実施した。今後取組む基本的な考え方として、以下の提言を取り纏めた。

a) 災害協定の改善・標準化

b) 災害時の発注関係事務の適正・効率化

c) 災害時の連携体制の構築

d) 建設業・建設関連業の評価向上

2. 次年度の活動について

(1) 災害時対応演習の実施（中部支部）

(2) 災害時に円滑な対応を行うための検討

- ・ 災害時のコンサルタント更なる活用策

- ・ 災害時にコンサルタントが果たすべき役割の明確化

- ・ 災害協定締結の基本的な考え方

(災害対策・BCP検討WG並びに災害対応WG
WG長 松田 寛志)